

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成28年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立和光国際高等学校	Bグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	創立30周年を機に、新しい組織である「調査研究委員会」を立ち上げて学校の目指す方向を検討している。委員会の活動を計画的に推進し、現状・課題などを把握・分析して目指す学校像を更に具体的かつ魅力あるものにしていただきたい。
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	学校の取り組むべき方向が三つの柱として設定されている。目指す学校像の検討と合わせ、学校の状況や取組の成果・課題などを踏まえた教育活動の指針となる具体的な目標を検討することが望まれる。
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	学校全体のシートに基づき、関連する重点目標の番号を表記するなど分掌・学年等のシートが連鎖を意識して作成されている。分掌・学年間の連携を図り、よく議論をしながら、より具体的な評価項目や方策について検討・策定する体制を整備して、教職員全体の参画を一層促していただきたい。
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	英語科や国語科などで教科指導における学び合いが行われ、教科会の活性化が図られるなど、評価項目の達成につながる取組が始まっている。評価指標については、何を、いつまでに、どの程度行うのかといった視点から、教職員間で目標の達成イメージが共有できるような分かりやすいものを設定することが望まれる。
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長は校長だより等を通じて自らの教育方針や姿勢を示すとともに、教職員一人一人を的確に生かし、組織力を高めて学校自己評価システムを活用した学校経営に取り組もうとしている。更に共通理解を深め、目標の達成を目指すことが期待される。
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	アンケートや学校関係者評価などを基に、取組を検証するための情報収集に努めている。目指す学校像の改訂に向けて今年度アンケートの見直しを進めている。学校関係者の意見やアンケート結果等を詳細に分析して新たな課題の析出や方策の見直しを検討するなど、次年度のより具体的な取組につなげ、スパイラルアップを図るようにしていただきたい。
特記事項		